

Always on Your Side

ZAPPALLAS
2008 The 9th Interim
Business Report




株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード **3770**

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、**いいかぶ**と4文字入れて検索してください。


kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。 **ご回答いただいた方の中から抽選で簿謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます。**

 ※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ **TEL: 03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)**
「e-株主リサーチ事務局」 **MAIL: info@e-kabunushi.com**

株主メモ

事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
株主確定基準日 <small>(定時株主総会・期末配当金)</small>	4月30日
中間配当基準日	10月31日
定時株主総会	7月中
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081
お問い合わせ先 郵便物送付先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (フリーダイヤル)
同取次所 公告の方法	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 電子公告により行う。(ただし電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。) (http://www.zappallas.com/ir/04.html)

ZAPPALLAS www.zappallas.com



証券コード：3770

第9期 | 株主通信(中間)

2007年5月1日から2007年10月31日まで

To Our Shareholders

株主の皆さまへ

本当の成長ステージがこれから始まります

ワンセグ放送の開始、ナンバーポータビリティ制度の導入、モバイルSuicaをはじめとする新たな課金システムの登場など、モバイルビジネスを取り巻く環境は大きく変化と拡大を遂げております。携帯電話の累計契約台数も約9,966万台(2007年10月31日現在)と1億台が目前に迫るまでになりました。

当社では、このような経営環境をさらなる飛躍のための足掛かりとすべく、社内でのノウハウ共有による業務効率の向上、コンテンツの内制化や商品構成の最適化による利益率の向上に努めてまいりました。また、品質管理を徹底することで顧客満足度の高いコンテンツを提供し、会員数の増加を図ってまいりました。これらの施策が功を奏した結果、2008年4月期中間期の売上高は4,003百万円(前期比22.8%増)、営業利益930百万円(前期比36.0%増)、経常利益933百万円(前期比36.5%増)、中間純利益498百万円(前期比39.5%増)と増収増益を達成することができました。また、通期の業績見通しにつきましても、売上高7,891百万円(前期比13.7%増)、営業利益1,631百万円(前期比30.4%増)、経常利益1,634百万円(前期比30.5%増)、当期純利益882百万円(前期比32.8%増)と上方修正をいたしました。

当社では、当期を今後の成長ステージのためのスタート地点と位置付けております。お客さまの生涯価値の向上に資するモバイルサービス実現へのチャレンジはまだ始まったばかりです。今後もモバイル業界におけるリーディングカンパニーを目指して全力で取り組んでまいりますので、引き続き温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



スギヤマ マサノリ
代表取締役会長兼社長 杉山 全功

Talk between President Sugiyama and President Ohtake

杉山全功会長兼社長と大竹のり子社長の対談 ～ザップパラスの優位性とこれからの可能性について～



株式会社ザップパラス
代表取締役会長兼社長
杉山 全功

Profile

1965年生まれ。1988年関西大学法学部卒業後、ダイヤル・キュー・ネットワーク取締役に就任し、音声を活用したコンテンツビジネス事業の立ち上げに参画する。シンフォレストで専務取締役、インデックスで経営企画室長など、他メディアでのコンテンツ業界を経て、2004年に㈱ザップパラス代表取締役社長に就任。2007年7月より会長職を兼務し、現在に至る。

株式会社エフピーウーマン
代表取締役
大竹 のり子



Profile

1975年生まれ。大学卒業後、書籍の編集者を経てファイナンシャルプランナーとして独立。2005年にエフピーウーマンを設立。個人投資家と金融業界の架け橋となるべく、執筆、講演、テレビ・ラジオへの出演など多方面で活躍している。『知識ゼロからのネット株入門』(ダイヤモンド社)、『一番やさしく株がわかる』(西東社)など著書は20冊以上に及ぶ。

大竹: 本日はよろしくお願ひします。

杉山: こちらこそ。よろしくお願ひします。

大竹: 私は普段、ファイナンシャルプランナーという立場から、数多くの個人投資家の方に接しています。現在は、新聞に雑誌、インターネットと有り余るほどの情報が簡単に手に入る時代ですが、企業側が本当に考えていることや素顔が伝わってくるメディアはそれほど多くありません。ですから今回は、対談ということで、個人投資家の方々の代わりに御社の素顔に切り込んでみたいと思っています。

大竹: まず、創業の翌年の2001年に社名変更をされたわけですが、「ザップパラス」という社名にはどのような意味が込められているのでしょうか?

杉山: 「にぎやか・元気がいい」という意味の“zapping”の“zap”と、知性を司るギリシア神話の女神“Pallas”を合わせた造語です。

大竹: 当時は多岐にわたるビジネスを手掛けられていたと伺いました。現在のようにモバイル向けの占いコンテンツにフォーカスするよう

になったのはいつごろからなのでしょう。

杉山: 私が代表取締役に就任した2004年からです。

大竹: なぜ「占い」に着目する?

杉山: ビジネスの選択と集中を行うために、マーケットを徹底的に調べたんです。その中で、まずは今後の発展性が大きいモバイル向けコンテンツに絞っていきこうと。次に、後発で参入しても勝てるコンテンツは何だろうという視点から調べていって、行き着いたのが占いだっただけです。



Talk between President Sugiyama and President Ohtake

杉山全功会長兼社長と大竹のり子社長の対談 ～ザッパラスの優位性とこれからの可能性について～

大竹：占いといえば、昔から女性向けコンテンツでは定番ですね。そこにまだ入り込む余地があり、しかも、現在のよう形でビジネスを確立されたということに新鮮な驚きを感じるのですが……。

杉山：当時、占いコンテンツの市場には、いわゆる「勝ち切っている」ところがなかったのです。そこに当社がナンバーワンになれる可能性を見出したというわけです。それに、占いには他のコンテンツにはない優位性がいくつもあるんです。

大竹：占いコンテンツの優位性とは。

杉山：大きくわけて3つあります。ひとつは、消費の鍵を握っているといわれるF1層(25～34歳の女性)が中心顧客であること。そして、ユーザーの属性を把握しやすいこと、継続性があることです。

大竹：サービスを利用する側からすると、誕生日や血液型といった、よりカスタマイズされた情報が見られると嬉しいわけですが、裏側か

ら見ると、コンテンツを通じてより詳細な属性が把握できるということにつながるわけですね。

杉山：そうです。それに、占いはニュース、天気予報に続く、毎日見ても飽きないコンテンツだと思うんです。毎日、ユーザーと接点を持ち、お付き合いを重ねながら嗜好や行動パターンをデータとして蓄積する。それらをデータマイニングすれば、オンラインショッピングなどのモバイルコマース事業にも生かすことができます。

大竹：コンテンツ事業とコマース関連事業が絶妙なシナジーを発揮しているわけですね。



Talk between President Sugiyama and President Ohtake



大竹：現在のコンテンツの会員数はどのぐらいですか？

杉山：2007年10月31日現在で無料会員が298万人、有料会員が178万人と、一貫して増加基調にあります。当中間期の業績が好調だったのも、会員数が大幅に増加したことが大きく寄与しています。優良顧客が多いため退会する方が少なく、新たに投入したコンテンツの分だけ上積みになるので、今後もさらなる増加が見込まれます。

大竹：素朴な疑問なのですが、コンテンツそのものは枯渇しないのですか？

杉山：現在、モバイル向けコンテンツは231サイト、PC向けコンテンツは101サイトありますが、まだまだ尽きることはありません。切り口はいくらでもあります。今後は、F1層を中心としながらも、F2層(35～49歳の女性)や男性、シニア層など、徐々に顧客層も広げていきたいですね。

大竹：そうすると、セグメントとしてもコマース関連事業の比重が大きくなりますね。

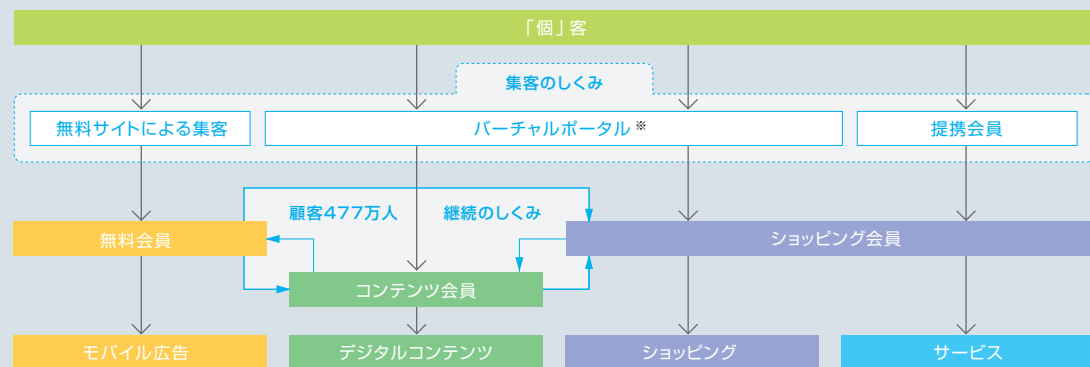
杉山：現在はコンテンツ事業が7割ぐらいを占めていますが、将来的にはこの比重を5割ぐらいにしたいと考えています。コンテンツ事業を縮小するというのではなく、それだけコマース関連事業の成長スピードを加速していくということです。

大竹：マーケティングビジネスにさらに注力されていくということですね。杉山：そもそも、「占い」に着目した理由もそこにありますから。ゆくゆくはデータベースマーケティングのノウハウ自体をソリューションとして販売することなども検討していきたいですね。

大竹：占いコンテンツを基点にしたビジネスの拡がりは無量大といえそうですね。今後のさらなる成長に期待しています。



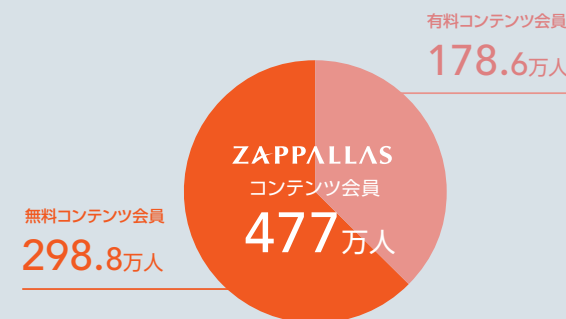
ビジネスモデル



*サイト間で相互リンクすることによって、露出度を高め、利用者の流入を増やすポータルサイトと同様の効果が得られることを指します。

ザッパラスの顧客層

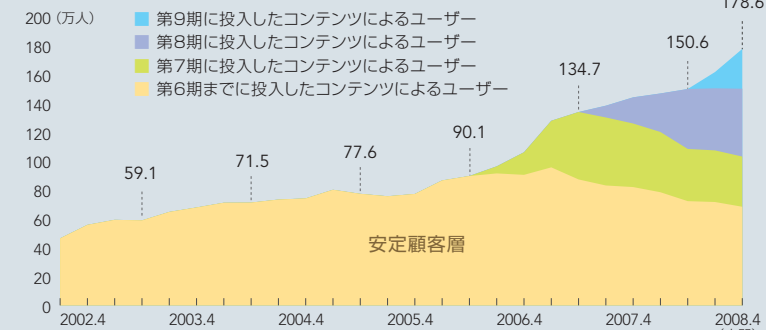
主な会員はF1層(25～34歳)の女性層



2007年10月31日現在

継続型ビジネスモデル

現存コンテンツを安定した会員層に、新規コンテンツ投入による新たな顧客が上積みされ着実に増加しています。



*当社の全カテゴリー・全コンテンツをサービス開始期別にユーザーを区分して作成しております。

Key Indicators

重要な経営指標

Point 1

有料コンテンツ会員数

ザッパラスグループでは、良質な新規コンテンツを着実に投入する一方、既存コンテンツについても品質管理の徹底により顧客満足度を高め、入会率の向上に努めています。その結果、当中間期末の有料コンテンツ会員数は178.6万人に達し、前年同期比で33.8万人の大幅な増加を実現しました。有料会員の主要となる顧客層は、可処分所得が多く市場牽引力が強いといわれるF1層(25歳～34歳の女性層)であり、モバイル向けコンテンツの種類別では、「占い」が123.8万人、「待受・デコメ」が36.5万人となっています。

ザッパラスグループの有料コンテンツ会員数は、過去3年間一貫して増加基調を維持しています。退会するお客さまが少ないため、新規に投入したコンテンツによるユーザーがそのまま有料コンテンツ会員数の上積み分となっており、強固な顧客基盤の形成がザッパラスグループの持続的な成長を支えています。

Point 2

コマース関連事業売上高

コマース関連事業はモバイルコマース事業と携帯電話販売事業の2つに分けられます。モバイルコマース事業では、コスメやダイエットサプリなどを主要商材とする『キレイ革命』、ブランドバッグやアクセサリなどを扱う『ブランドアウトレット』、お菓子やケーキなどを販売する『スイーツの王様』という3つのショッピングサイトを中心に合計19の公式サイトを運営しており、商品構成の最適化による利益率の向上と効率的な集客による売上の拡大に注力しています。一方、子会社の株式会社ジープラスが手掛ける携帯電話販売事業では、管理業務の効率化を目的として当中間期に2店舗を売却し、3店舗体制にいたしました。

こうした取り組みの結果、当中間期のコマース関連事業の売上高は前年同期比で25.4%増加し803百万円となりました。2008年4月期下半期は、売上原価率の低減により利益体質のさらなる強化を進めていく考えです。

Point 3

売上高経常利益率

ザッパラスグループは企業の収益力を端的に示す経営指標として売上高経常利益率を重視し、常に10%以上を確保できる体制の構築をめざしています。当中間期の売上高経常利益率は23.3%であり、前年同期比で2.3ポイント向上しました。前年同期に引き続き20%を超える高水準の数値を達成できた要因としては、デジタルコンテンツ事業において徹底した品質管理を推進し高収益構造の強化を図ったこと、およびモバイルコマース事業において収益改善の前進が見られたことなどがあげられます。ザッパラスグループは今後も、収益性の高いデジタルコンテンツ事業において積極的なコンテンツ投入を進めるとともに、事業の効率化によるコマース関連事業の一層の収益改善やモバイル広告ビジネスの強化といった諸施策を通じて、売上高経常利益率の維持・向上を実現していきたいと考えています。

Point 4

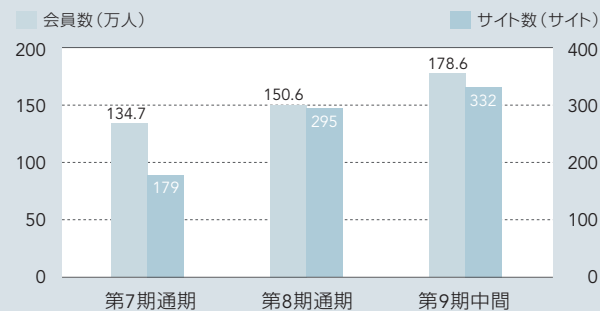
新規投入サイト数

当中間期は、モバイルコンテンツ34サイト、PCコンテンツ13サイト、合計47サイトを新規に投入しました。その結果、当中間期末の提供総サイト数は、前年同期より109サイト増加し332サイトとなりました。

ザッパラスグループが圧倒的なシェアを有しているモバイル向け占いコンテンツについては、当期20サイトを投入しました。『3ヶ月後の未来』『天使の予言』『ピタゴラス数秘術』などがF1層を中心に高い人気を集めています。またPC向けには、『京都八坂の母』『ダ・ヴィンチ・タロット』など、ザッパラスグループならではの魅力的なコンテンツの配信を開始しました。中でも『運命解読～ゲマトリア数秘術～』はYahoo!占いランキングで1位を獲得しています。

2008年4月期下半期には、当初計画の39サイトを上回ってのコンテンツ数を投入してまいります。

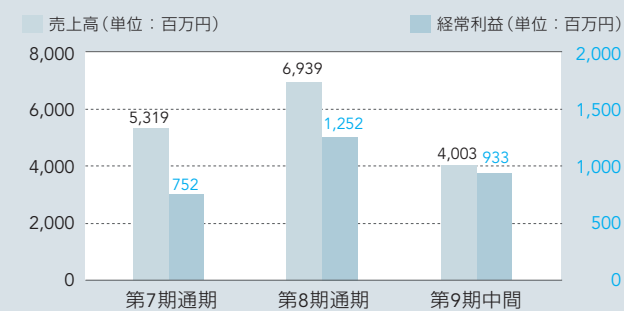
会員数及びサイト数



主要ショッピングサイト

<p>キレイ革命</p> <p>エモーションナルハート エタニティー 香水</p>  <p>ラブベリーボディ ダイエットグッズ</p> 	<p>ブランドアウトレット</p> <p>【ランイウ】 LANEVE メッシュコート LE-4002 SV</p>  <p>【ブルガリ】 BVLGARI ロゴマニア 二つ折財布/ 22250 ブラック</p> 	<p>スイーツの王様</p> <p>【胡蝶庵】 とろける 抹茶生大福</p>  <p>【花月堂】 ブランタンヌーボー</p> 
---	--	--

売上高及び経常利益



提供サイト

<p>ママデコメ</p> 	<p>3ヶ月後の未来</p> 	<p>運命解読 ～ゲマトリア数秘術～</p> 
---	---	---

Consolidated Financial Statements

連結財務諸表

■ 貸借対照表(要旨)

(単位：千円)

科目	当中間期	前期
	2007年10月31日現在	2007年4月30日現在
資産の部		
流動資産	4,613,094	4,098,072
固定資産	1,241,522	1,410,838
有形固定資産	147,797	150,052
無形固定資産	803,879	982,674
投資その他の資産	289,846	278,110
資産合計	5,854,617	5,508,910

(単位：千円)

科目	当中間期	前期
	2007年10月31日現在	2007年4月30日現在
負債の部		
流動負債	1,406,866	1,388,915
負債合計	1,406,866	1,388,915
純資産の部		
株主資本	4,382,435	4,077,278
資本金	1,402,343	1,396,243
資本剰余金	1,327,718	1,321,618
利益剰余金	1,652,373	1,359,416
少数株主持分	65,314	42,716
純資産合計	4,447,750	4,119,995
負債純資産合計	5,854,617	5,508,910

Consolidated Financial Statements

■ 損益計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当中間期	前中間期
	自2007年5月1日 至2007年10月31日	自2006年5月1日 至2006年10月31日
売上高	4,003,749	3,259,349
売上原価	1,672,955	1,457,381
売上総利益	2,330,794	1,801,967
販売費及び一般管理費	1,400,340	1,118,056
営業利益	930,453	683,911
営業外収益	4,682	7,760
営業外費用	1,786	7,836
経常利益	933,349	683,835
特別利益	29,418	911
特別損失	41,434	38,000
税金等調整前中間純利益	921,333	646,745
法人税、住民税及び事業税	438,873	315,696
法人税等調整額	△11,069	△16,147
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△5,027	△10,138
中間純利益	498,557	357,334

■ キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：千円)

科目	当中間期	前中間期
	自2007年5月1日 至2007年10月31日	自2006年5月1日 至2006年10月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	457,600	346,964
投資活動によるキャッシュ・フロー	△275,110	△184,942
財務活動によるキャッシュ・フロー	△156,032	△116,177
現金及び現金同等物の増減額	26,456	45,844
現金及び現金同等物の期首残高	2,441,966	1,970,070
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,468,422	2,015,915

■ 株主資本等変動計算書(要旨) 当中間期(自2007年5月1日至2007年10月31日)

(単位：千円)

	株主資本				少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計		
2007年4月30日 残高	1,396,243	1,321,618	1,359,416	4,077,278	42,716	4,119,995
中間連結会計期間中の変動額						
新株の発行	6,100	6,100		12,200		12,200
剰余金の配当			△205,600	△205,600		△205,600
中間純利益			498,557	498,557		498,557
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					22,597	22,597
中間連結会計期間中の変動額合計	6,100	6,100	292,957	305,157	22,597	327,754
2007年10月31日 残高	1,402,343	1,327,718	1,652,373	4,382,435	65,314	4,447,750

Non-Consolidated Financial Statements

単体財務諸表

■ 貸借対照表 (要旨)

科目	(単位：千円)	
	当中間期 2007年10月31日現在	前期 2007年4月30日現在
資産の部		
流動資産	4,270,124	3,729,126
固定資産	1,494,760	1,609,246
有形固定資産	101,345	94,685
無形固定資産	169,720	182,190
投資その他の資産	1,223,694	1,332,370
資産合計	5,764,885	5,338,373
負債の部		
流動負債	1,284,306	1,226,927
負債合計	1,284,306	1,226,927
純資産の部		
株主資本	4,480,579	4,111,445
資本金	1,402,343	1,396,243
資本剰余金	1,327,718	1,321,618
利益剰余金	1,750,517	1,393,583
純資産合計	4,480,579	4,111,445
負債純資産合計	5,764,885	5,338,373

■ 損益計算書 (要旨)

科目	(単位：千円)	
	当中間期 自2007年5月1日 至2007年10月31日	前中間期 自2006年5月1日 至2006年10月31日
売上高	3,443,800	2,767,441
売上原価	1,280,871	1,180,713
売上総利益	2,162,928	1,586,727
販売費及び一般管理費	1,231,699	883,869
営業利益	931,229	702,858
営業外収益	4,821	1,204
営業外費用	1,722	7,107
経常利益	934,328	696,955
特別利益	29,236	3,188
特別損失	1,630	38,000
税引前中間純利益	961,934	662,143
法人税、住民税及び事業税	408,000	296,675
法人税等調整額	△8,599	△17,994
中間純利益	562,533	383,462

■ 株主資本等変動計算書 (要旨) 当中間期 (自2007年5月1日 至2007年10月31日)

	株主資本				純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	
		資本準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
2007年4月30日 残高	1,396,243	1,321,618	1,393,583	4,111,445	4,111,445
中間会計期間中の変動額					
新株の発行	6,100	6,100		12,200	12,200
剰余金の配当			△205,600	△205,600	△205,600
中間純利益			562,533	562,533	562,533
中間会計期間中の変動額合計	6,100	6,100	356,933	369,133	369,133
2007年10月31日 残高	1,402,343	1,327,718	1,750,517	4,480,579	4,480,579

Corporate Data

会社案内 (2007年10月31日現在)

■ 会社の概況

会社名	株式会社ザッパラス
住所	東京都渋谷区恵比寿一丁目19番19号
資本金	14億234万3,600円
設立	2000年3月
事業年度	5月1日から翌年4月30日まで
従業員	連結122名 (2007年10月31日現在)
子会社	株式会社ジープラス 株式会社アレス・アンド・マーキュリー

■ 役員

代表取締役会長兼社長	杉山全功
取締役	森春之
取締役	松本浩介
取締役	山崎浩史
社外取締役	田中奉文
常勤監査役	山口豊義
監査役	井上昌治 (弁護士)
監査役	濱村則久 (公認会計士)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	190,000株
発行済株式の総数	129,110株
株主数	2,388名
大株主の状況	

順位	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1	玉置 真理	27,620	21.39
2	三木谷 浩史	14,930	11.56
3	日本マスタートラスト信託銀行株式会社	14,122	10.94
4	ネットキャピタル パートナーズリミテッド	12,050	9.33
5	佐藤 和利	6,190	4.79
6	明治安田生命保険相互会社	3,198	2.48
7	日本トラスティサービス信託銀行株式会社	3,159	2.45
8	杉山 全功	2,860	2.22
9	トランス・コスモス株式会社	2,600	2.01
10	モリス・アトキンソン・アドヴァイザーズ・インターナショナル・ピーエルシー	2,110	1.63

株式の分布状況

